

2024年4月30日

各 位

株式会社三井住友銀行

株式会社アルバックに「ESG/SDGs 推進分析融資」を実施

株式会社三井住友銀行(頭取 CEO:福留 朗裕)は、株式会社アルバック(本社:神奈川県茅ヶ崎市、代表取締役社長:岩下節生)に対し、「ESG/SDGs 推進分析融資」を実施いたしました。

「ESG/SDGs 推進分析融資」は、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所(代表取締役社長:谷崎 勝教)が作成した独自の評価基準に基づき企業のESG(※1)側面の取り組みや情報開示、SDGs(持続可能な開発目標)(※2)達成への貢献を評価し、取り組みや情報開示の適切さについての現状分析、今後の課題、課題への取り組み事例などを還元させていただく融資商品です。

今回の株式会社アルバックに対する評価結果は、「気候変動への対応」、「顧客に対する誠実さ」、「サステナビリティマネジメント」において非常に高い水準であると判断されました。

企業経営において優れたESG側面の取り組みと情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGsへの貢献意欲が高いとの判断となりました。

ESG側面の取り組み、情報開示では、以下の点等が進んでいるとされました。

- ① 事業活動における中長期の温室効果ガス排出量削減目標として、2030年に40%削減(2020年比)、2050年には実質ゼロを掲げ、再生可能エネルギーの導入や事業所における省エネの取り組みを実施。また、真空技術を通じた技術革新により、パワーデバイスの効率性向上や各種電子デバイスの省エネ化を実現し、顧客の環境負荷低減に貢献しておられる点。
- ② 要求される安全品質を出図段階や製品出荷段階において検証する活動に加え、「ISO9001」規格による品質マネジメントシステムに基づいた製品・サービスの品質向上への取り組み等により、顧客満足度の向上に努めている。また、薄膜形成技術を活用したEV(電気自動車)向けバッテリーによる小型大容量化・安全性向上や、各種デバイスの提供を通じてスマート社会・デジタル化の推進に貢献しておられる点。
- ③ 「サステナビリティ推進委員会」「サステナブル経営推進室」等の設置により、全社的なサステナビリティ推進体制を構築したうえで、マテリアリティ(重要課題)として「真空技術をコアとしたイノベーションの創出・共創の推進」「持続可能な地球環境への貢献」を掲げるなど、本業を通じてサステナビリティに取り

組む姿勢を強化しておられる点。

加えて、事業を通じて、SDGsが示す「目標 9:産業と技術革新の基盤をつくろう」等の達成に向けた意欲をお持ちです。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs 推進分析融資」により、お客さまの ESG/SDGs への取り組みを、金融を通じて支援してまいります。



マルチチャンバ型スパッタリング装置  
「ENTRON™-EX W300」

マルチチャンバ型スパッタリング装置「ENTRON™-EX W300」は、フットプリント（装置面積）を縮小し、株式会社アルバックの独自基準の環境配慮項目「省スペース・小型軽量・シンプル化」・「部品点数の削減」を満たしており、省資源とお客様の製造時の CO2 排出量削減が期待できます。



枚葉式複合モジュール型成膜加工装置「uGmni-200」

「uGmni-200」（ユージェミニ）シリーズはスパッタリング、エッチング、アッシング、CVD など複数の異なるプロセスモジュールを同一搬送コアに搭載し、構成部品の共通化をコンセプトにした成膜加工装置です。組立ナビゲーションの整備、レイアウトの最適化等により、装置組み立て時間は従来モデル比 10%以上改善されています。

<ご参考>

#### ※1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

#### ※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世

界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットの事です。

以 上